

事務事業名	市民バス運行管理事業	所属部	政策企画部	所属課	地域振興課	
総 計 画 体 系	政策名	(Ⅱ)環境に配慮した安全・快適な生活環境づくり<<定住環境>>	所属G	地域振興グループ	課長名	加津山 幸登
	施策名	(09)公共交通ネットワークの整備	担当者名	野々村 一彦	電話番号	0854-40-1014 (内線) 3520
	目的 対 象	公共交通機関利用者 意 図 公共交通機関を使って日常生活で安全・便利に移動ができるようにする。	予算科目	会計 款 大事業 大事業 0 1 1 0 0 2 項 目 中事業 0 5 7 5 0 3	公共交通対策事業	
	目的 対 象	公共交通機関利用者 意 図 利便性の高い公共交通機関を利用できるようにする。	市民バス運行事業			

1 現状把握【DO】

(1)事業概要

① 事業期間
<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (16 年度～)
<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ( 年度～ 年度 )
② 事業内容 (期間限定複数年度事業は全体像を記述)
市民の交通手段の確保を図り、公共の福祉の増進に資するため、道路運送法第79条の規定により市町村運営有償運送バスを運行する事業。

(2)事務事業の手段・指標

手 段	① 主な活動					
	25年度実績(25年度に行った主な活動) 市内全路線の運行管理等業務(運行等業務委託契約事務、通行規制、苦情対応など)、県交付金交付申請事務、雲南市生活交通ネットワーク計画の策定、デマンド型乗合タクシーの大東町春殖・幡屋、阿用・久野地区及び三刀屋町飯石・中野地区実証運行 など	26年度計画(26年度に計画する主な活動) 市内全路線の運行管理等業務(運行等業務委託契約事務、通行規制、苦情対応など)、県交付金交付申請事務、デマンド型乗合タクシーの大東町春殖・幡屋、阿用・久野地区、三刀屋町飯石・中野地区実証運行継続及び大東佐世、塩田地区、三刀屋高窪・伊萱地区実証運行開始 など				
	② 活動指標	単位	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(計画)
	ア 路線数	路線	33	35	35	36
	イ 運行便数	便	135	143	143	147
	ウ					
	エ					

(3)事務事業の目的・指標

目 的	① 対象(誰、何を対象にしているのか)	③ 対象指標	単位	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(計画)
	市民	ア 人口	人	41,159	40,548	40,055	39,949
		イ					
		ウ					
② 意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標	単位	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(計画)	
市内での移動を快適、円滑にできる。	ア 市民バス利用者数(だんだんタクシー除く)	人	240,331	221,745	208,708	205,000	
	イ						
	ウ						

(4)事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (25年度決算)	② コストの推移	単位	23年度(決算)	24年度(決算)	25年度(決算)	26年度(計画)	
【市民バス運行事業】 運行委託料 175,891千円、車検諸費用等 2,582千円(保険・重量税・印紙代等)、車両等修繕費13,935千円、雲南市民バス吉田大東線再編業務委託2,940千円、その他3,428千円(時刻表印刷代ほか)	財 源 内 訳	国庫支出金	千円		448	600	600
		県支出金	千円	8,371	6,541	10,392	13,511
		地方債	千円				
		その他	千円	28,591	27,347	26,838	27,558
	一般財源	千円	149,372	150,226	160,946	143,422	
	事業費計(A)	千円	186,334	184,562	198,776	185,091	
	人 件 費	正規職員従事人数	人	2	2	2	
延べ業務時間		時間	1,368	1,262	1,379		
人件費計(B)		千円	5,393	4,945	5,368		
トータルコスト(A)+(B)	千円	191,727	189,507	204,144			

(5)事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?)
過疎高齢少子化による人口減少に伴い、利用者数も減少傾向にある中、平成20年度に「雲南市地域公共交通総合計画」を策定し、平成23年度には「雲南市民バス再編計画」を策定。高齢者等にやさしい交通社会の実現を目指し、幹線の統一化や地域への新たな交通システムの導入を進めている。	スクールバスとの一体化や吉田地域へのデマンド型バスの導入、大東及び三刀屋地区でのデマンド型乗合タクシーの実証運行の実施など利便性の維持向上と経費節減による効率化を図るため、各種事業に取り組んでいる。	①JR路線との競合回避に関し、役割分担を図り解消した。②市民バスのルート及びダイヤ変更要望 ③市民・議会から屋間の利用者数が少なく「空バスが走っている」「燃料資源のムダ遣い」、デマンド型乗合タクシーのエリア拡大などの意見要望がある。

事務事業名	市民バス運行管理事業	所属部	政策企画部	所属課	地域振興課
-------	------------	-----	-------	-----	-------

2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？		見直し余地があるとする理由	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている * 余地がある場合⇒		
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して達成する目的か？			
B 有効性	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加する必要はないか？意図を限定・拡充する必要はないか？			
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である * 余地がある場合⇒		
	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方ははないか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？			
C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある	理由	運行形態やルート・便数・時間帯など市民バス運行を見直し、より効果的効率的な運行を図り、利便性を維持向上させていくことで、利用者の満足度を高めることができる。	
	<input type="checkbox"/> 向上余地がない			
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？		理由	児童・生徒や高齢者など交通手段が限られる方の移動手段が無くなるため、市民生活への影響は大きい。高齢者の買い物や、子どもの通学が大変不便になり、生活環境に支障をきたす。
<input type="checkbox"/> 影響無	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有			
D 公平性	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的達成には、この事務事業以外の手段(類似事業)はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？		理由	
	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がある * ある場合⇒	(具体的な手段や類似事業名)		スクールバス事業。
	<input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる	<input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない		校区の変更や児童・生徒数の変化等、地域の実情に応じてスクールバスの混乗化や混乗型スクールバスの専用化を検討する。
C 効率性	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)		理由	
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある	<input type="checkbox"/> 削減余地がない		運行管理業務委託費については、最低単価等で設計しており、安全運行及び管理体制などを重視すると、これ以上の事業費の削減は難しいが、委託範囲を一本化したり、デマンド型など経費節減が期待できる運行手法の導入により事業費の削減は可能である。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？			
<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある	<input type="checkbox"/> 削減余地がない	理由	契約事務の簡素化を図れば業務時間の削減ができる。	
D 公平性	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？		理由	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である		市民バス運行は、交通弱者の市内移動手段であり、公平・公正である。
評価の 総括	① 1次評価者としての評価結果		② 1次評価結果の総括(根拠と理由)	
	A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり		人口減少・少子高齢化が進む中、利用者の増は見込めず、市民バスの利用者についても、年々減少している現状にある。しかしながら、交通弱者の移動手段を維持確保し、運行経費の抑制を図りながら、新たなデマンド交通システムの導入による利便性の向上を行ない、利用促進と継続的な市民バス運行を図る必要がある。
B 有効性	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり		
	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり		
C 効率性	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり		
	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり		
D 公平性	<input type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり		
	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり		

3 今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可		② 改革・改善による期待成果																								
<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 目的再設定	<input checked="" type="checkbox"/> 事業統廃合・連携																							
<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善)	<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善)	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善)	<input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)																							
平成20年度に策定した『雲南市地域公共交通総合連携計画』及び平成23年度に策定した『雲南市公共交通再編計画』に基づき、引き続き公共交通の活性化に向け事業展開する。																										
		<table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>				コスト					削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×
		コスト																								
		削減	維持	増加																						
成果	向上		●																							
	維持			×																						
	低下		×	×																						
<p>廃止・休止の場合は記入不要。 コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。</p>																										